





= Breeze from the field of that ch-grass =

2004年7月19日 森林塾青水 事務局便り **茅風通信10号**



今号の日次 -
朗報:「日本の里地里山 30 保全活動コンテスト」受賞!! ・・・1
活動参加レポート
5月フィールドスタディと講座「コモンズ村・ふじわら」
・藤原の集落めぐりと「山の口開け」式 /川端英雄・2
・山の口開けとクリーンアップ作戦 /田村朱実・・・・・・2
・楽しかったゴミ拾い / 阿部初音・・・・・・・・3
・講座「コモンズ村ふじわら」に参加して/渡辺美知江・・3
/ 堂前芳崇・・・4
・古老ヒアリング /湯本信康・・・・・・・・・4
・山の口開弁当とロッジとんちのごちそうメニュー /三好正子5
第 21 回「森林の市」出展・・・・・・・・・5
麗澤中学「樹木観察会」に参加して / 伊東伴尾・・・6
団体受入「自然ふれあい楽習プログラム」 /清水英毅 ・7
/ 和田香代子・7
事務局からのお知らせ ・・・・・・・・・8
編集後記・孰長のつぶやき・・・・・・・・・・

朗報!!「日本の里地里山 30 保全活動コンテスト」受賞報告

以前にお知らせしたと思いますが、「日本の里地里山 30」保全活動コンテストに選定され、6月12日(土)読売新聞東京本社で行われた表彰式に、池田、海老沢、浅川の3名が出席しましたのでご報告します。

最初に、審査結果、審査委員の守山弘氏(日本テレビのダッシュ村監修)より審査講評、表彰が行われ、池田氏が代表して表彰盾と助成金 10 万円を受け取りました。その後活動報告会が行われ、各団体 3 分と短い報告でしたが浅川が行いました。最後は、懇親会が行われ、各地の団体の方々とお話できる機会がありました。一番大勢こられたのは千葉の県立茂原農業高等学校の生徒さんたちでした。





今回の保全活動団体の選定に当たっては、[1]生物多様性保全、[2]多様な主体の参画、[3]社会的仕組み作り、地域活性化、[4]環境学習、体験学習、[5] 先進性、独自性等の観点から総合的に審査し、特に保全活動等が顕著であると認められた30団体を選定した、との環境省コメントでした。

活動実績がまだ短い当団体が選出されたのは?

1.ほかの団体は、会員の身近なフィールド、地元で活動しているところが多く、当団体のように多くの都市会員が、離れたフィールドで活動している団体はめずらしい。2.森林や都市近郊の里山保全団体が多い中で、奥里山の茅場の保全活用を行い、火入れが40年ぶりに復活できた。3.今回選出は全国

バランスを多少考えながら選出されている。全国に3000団体あるといわれ、特に都市近郊に多くあるようです。

受賞を踏まえて今後の取り組み方

1.他の受賞団体、特に、群馬県から選出されたNPO法人新里昆虫研究会とはフィールドが近いので是非お互いに訪問し、今後の活動を協力していけるような関係をつくっていきたいです。2.来年開催の愛知万博に関連して、今回選出された愛知県美浜町・布土まちづくり推進委員会が中心となり里地里山サミットが開催されるようです。今後各団体に協力が求められるようで、当団体でも是非参加しようと考えています。そして今回選出された団体と、今後協力体制ができるように情報提供を行います。3.当団体が認められた活動を、生物多様性保全を主体として継続的に行っていくことです。 (浅川記)

藤原の集落めぐりと「山の口開け」式 5月15日(土曜日)

川端英雄

講座「コモンズ村・ふじわら」の受講生 13 人が、水上町仕立てのバスに乗り込んだ。事前に講師役の林親男さんと中島武さんのレクチュアを受けて、藤原地区の歴史・風土・文化・産業・住民活動のあらましがおぼろげながら理解できたと思う。親男さんはとうとうと、武さんはとつとつと、二人の掛け合いぶりが軽妙かつ地元への愛着を感じる。

雷電さま、ミズナラからカラマツ植樹への転換、サクラの時期の苗代掻きなど、車中での解説がはじまる。電灯のつくのがもっとも遅かった青木沢をすぎて武贄川をわたる。156 戸が水没した藤原ダム湖、すべてが水没した大滝沢、藤原 1・2 の広い田んぼのある師人、個人が作った奥利根民俗集古館のある原、個数 5~6 戸しかない荻野入、24 代目の古刹・応永寺や雨呼山がある民宿集落・関が原、小高の大臣と呼ばれる熊取り名人阿部家や仙太郎旧居を通過してバスは朝川に入る。ここは大坪義一さんのふるさと村郷土館があり、昔ながらの田園風景がひろがる。大沢、縄文時代の土器が出土した大芦、図書券まで頂戴した電源 P R 館のある須田貝、東洋一のロックフィルダムを誇る奈良俣ダムがみごとな湯の小屋、3 k mも先から水をひいて開発された一畝田、当地で一番にぎやかな久保を通ってバスは正午まえフィールドに着く。やがて始まる 40 数年ぶりの「山の口開け」式に参加するためだ。

水上町長による、17名の森林塾青水会員へのグリーンツーリズム戦略検討委員の任命式をはさんで、「山の口開け」式が始まった。「共同利用している山林や漁場に採取のため入ることを解禁すること」(広辞苑)の始まりの儀式。その原義は単に解禁にあるのではなく、恵みをもたらしてくれる山や海の神様に感謝と安全を祈願する、農漁民の素朴なこころの発露にあろう。地元を代表して阿部惣一郎さんが、恥ずかしそうに進み出る。

白樺に結び付けられた当地特有の左巻きの注道縄と御幣に向かって、二礼二拍手一礼。神式だ。惣一郎さん、緊張のあまりだろう、二礼のところを三礼。なにせ、40数年ぶりのことだったし、大勢の観衆の中だったからね!!

拝礼を受けた、山で働く人の守護神・十二様もひさしぶりのことで、さぞ戸惑っておられたことだろう。

一礼して、講座「コモンズ村・ふじわら」の無事終了を願う。

「山の口開け」式あっけなく終わってしまったが、11 月にはまた「山の口 閉め」もある。

ただ、お辞儀の方向が、茅場 (フィールド) のお山ではなく谷川・朝日連峰 へ向かってであり、お供えもないのが気になったが、次回そのわけをお尋ね してみよう。





山の口開けとクリーンアップ作戦 森林塾の方々との交流にて

NPO 法人水上自然遊楽 田村朱実

朝から、とても気持ちのいいお天気でした。上の原へ行くの久しぶりだなあと思い、心がワクワクした感じでした。この時期は新緑がとても気持ち良く、風もすごく心地のいい季飾です。子ども達も、きっと喜ぶだろうなぁと思いつつ、11 時 30 分に家を出発しました。藤原ダムがある方を通って行きましたが、新緑が本当にきれいで、うっとりしながら行く道を楽しんで来ました。



上の原に着くと、皆さんが集まって用意に取り掛かっていました。子ども達も着いた瞬間、車のドアから飛び出して、自然の中へ引き込まれるようにかけて行きました。最初に森林塾の活動報告や、これからの意向などを話して頂きました。皆さん、本当に自然を大切に思っているんだなぁと、心にしみる思いでした。この後,水上町長であります腰越さんからの歓迎のあいさつがあり、そして、地元主婦の方々でまわしているお店、気ママ屋代表で中澤さんから、今目のお昼のメニューの紹介がありました。気ママ屋さんの作ったお昼は、とてもおいしくて、体が自然に喜んでいる感じがしました。しかも、全部地元でとれたものを、ふんだんに使ったメニューでした。

みんなでお腹いっぱいになり'さぁ いよいよゴミ拾い'という時に、子ども達の中でも眠くなる子、ケンカをしだす子、ぐずる子がでてきました。いやはや子供はまったが聞きませんが、なんとかあやして、皆で一生懸命ゴミ拾いをしました。拾ってみると、たくさんの空き缶や、プラスチックのゴミ、その他もろもろいっぱいゴミが出てきました。こんなきれいな自然に触れても、平気でゴミをおいていくのかなぁと、悲しい気分



になりました。少しでもきれいになると、なんだか心まできれいになった気がして、とてもすがすがしい気持ちになりました。

塾長の清水さんからは、茅で作った茅の輪のことや、水の重要性、マイ箸と、マイカップの必要性など、色々とお話を聞かせて頂き、すごく勉強になりました。子ども達と、こんな素晴らしい体験が出来た事、こういった機会を作って頂いた森林塾の方々、町長さんをはじめ役場の木村さん、地元の有志の方々、本当にありがとうございました。又今年も色々な形で、参加していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いします

楽しかったゴミ拾い

阿部初音(小学生)

今日は上ノ原でゴミ拾いがありました。おひるごはんは、とてもきれいなところでたべました。ゴミ拾いが始まった時、「こんなきれいなところにゴミがあるのかな」とおもって、あまりゴミはないとおもっていました。だけどものすごくゴミがあったので、とてもびっくりしました。私は、いもうとのふくろの、カンとビンをみつけることにしました。おじさんたちは、「さがせばあるよ」と言っていたけれど、あまり見つかりませんでした。みんなは、私より先に、みつけたので「どこにあんなにゴミがあるのかな」とおもっていたら、あしもとにかたいものがありました。見てみるとカンでした。私は、「あった」と思って拾いました。私は上を見てみると、みんなは、もう私より上にいっていました。私ははしっておいかけました。みんなは私のことをまっていてくれました。いそいでいくと、はしっている時に、ゴミがたくさんおちていました。拾いながらもみんなのところへおいつきました。こんどは、みんなにおいつくように気をつけたいとおもいます。

かえる時は、「こんなにゴミがあったんだ。気がつかなかったな」とおもいました。今日はここへくる時は、ゴミはあまりないなとおもっていたけれど、ここにきてさがしたらたくさんあったので、びっくりしました。カンは、五こくらいいしかひろえなかったけれど、たのしかったです。またこんどこんなことがあったら、ともだちをさそってゴミ拾いをしたいです。今日はとてもたのしかったです。

おじさんからいいことをききました。まるいわがあって、その中を左に1回、右に1回わってそしてまた、左を1回まわると、べんきょうもよくなり、びょうきにもかからないそうです。今日はとてもいい日でした。またやりたいです。



講座「コモンズ村ふじわら」に参加して(1)

渡辺美知江

山の新緑の美しさ、花の可憐さに心を奪われた三日間でした。初日は自己紹介と日程の説明を聞いて、床につきました。二日目からは各自の自然と対話を、各自で実行することと思われました。

地域の皆さんと「山の口開け」儀式に参加。若い方々も地域のために一生懸命な様子が、私どもにも伝わってきました。私たちもこの中にとけ込めることができるのか、懸念しながら・・・・。

その後は、いよいよ課題のひとつであるフィールドを、山歩きしながら考える時間です。山に足を入れて最初に感じたのは、茅の油でした。茅の上に足を乗せたとき足元が滑りやすく、茅の持つ油のようなものを感じました。昔の人の知恵を思い知らせられる現実でした。



課題については、山をもっと知り、理解したうえで考えたほうが良いようです。三日目、藤原集落をグループごとに分かれ、提案された事項をもとに考えながら雨の中を半日歩きました。歩くこと、見ること、観察すること、私の中では好きなことのひとつ。街道歩きをやっている私にとっては、雨中でも楽しいひと時でした。小さな発見、住民の方々との対話、自分の街もこれほど細かく見て廻ったことはなかった様に思います。楽しい時間でした。結果をグループごとに話し合いをしたときに、同じ道を廻ったおりの話を聞くことによって、あたらしい発見・観察の観点を思い知らされる不思議さが新鮮でした。出来るかな?と思っていた住民の方々との対話もスムーズに出来、私どもの興味にも気軽に話し合ってくださった多くの方々に感謝する、第一回「森林コモンズ村・ふじわら」だったように思います。

講座「コモンズ村ふじわら」に参加して(2)

堂前芳崇

5/14(土)は、朝から天気が良く、気分爽快。泊まったロッジ近く、白樺の木立の間からは、残雪の残る谷川岳も望める。

<フィールドの徒歩観察>清掃しながらフィールド観察を進める。意外にもビン・カンのゴミが多い。山奥にもマナー違反の人たちが多いようだ。斜面を進みながら、海老沢講師から植物名を教えていただく。頭の中で反復して樹木等の植物の名前を覚えようとしつつも、個人的には食べられるかどうかが気になる。途中から斜面横断方向に歩き出すと、海老沢氏が歩きなれているせいか、それとも私たちが運動不足のせいか、海老沢氏から遅れる。そんな中、斜面下を振り返るとフィールドが見渡せた。決して広くは無いのだけれども、実際作業することを考えると大変そうだなと思った。でも終わった後にはやりがいがある何かがあると思うと、ワクワクして楽しくなった。

5/15(日)は朝からあいにくの雨。残念ながら天気予報通りである。雨の中の木立もきれいだ。

<藤原中区での路上観察とその発表>

私のグループは渡辺リーダーを中心に観察を開始。藤原小・中学校から一畝田地区を歩き、藤原中心街の久保を通って萩ノ入へと巡るコースだ。途中気になるところが何箇所かあった。小・中学校、阿部薬師、一畝田の田園、諏訪神社などである。違和感を覚える場所、とてもすばらしいと思えた場所等。藤原には"自然と伝統がねむっている"のだなあと思った。反面、それらが"ねむっている"のは残念だし、活かしていかなければならない。ハードの整備よりソフト的な整備が必要な印象を受けた。飛躍していえば、物よりも人ということか。

その後、お昼をはさんで各グループ別の路上観察発表を行った。3つ目のグループの内容が大変印象に残った。"コモンズ広場を発見"である。物よりも人が大事なら、人と人が集える"コモンズ"が必要なのかな・・・と。"コモンズ"は藤原の"資源"を活かすキーワードかな?





古老ヒアリング 阿部惣一郎氏、高田保氏、月岡区長 中島武氏に聴く

湯本信康

上ノ原フィールドへの入山規制について

入山料を40年代頃まで取っており、当時は区費を集めなくてもよかった。

その金が2年ほど前まで特別区費として残っていた。

上の原へ山菜を採りに来る人は、地元に泊まらない。ただゴミを落としていくだけ。森の管理やゴミ処理 の費用代としてお金をとってもよい。

お金を取る方法として、ゲートでチェツクして入山料を取る、駐車場(宝台樹)の利用料として取る,などの意見がでた。料金を徴収する管理人を置く必要がある。

藤原へ気持ち良く来てもらいたいなどの課題もある。

ワラビ採りのルールを守らせる

お金を取るのもよいが、自然保護や資源保護の立場からルールを守らせることが大切。山菜採りと希少植物の持ち帰りが心配。

繁殖期のワラビは採らせない。(「8月のワラビは嫁に食わすな」と言われ美味しいが採ってはいけない) ワラビ採りは期間を決めて入山を許可する。(「ウツギの咲くころがワラビが一番よく採れるピーク」と言われ、6月一杯で禁止する)

小屋づくりについて

惣一郎さんから新しい「仮小屋づくり」の提案があった。場所は入口近くの土盛りしてあるところ ("茅の輪"の裏側)。 広さは 2 間×3 間位。

柱等の材木は、月岡氏がカラマツ材とスギ材を用意してくれている。

屋根葺き用のカヤは、1000束(250ボツチ)くらい必要。

その他

歩道は手掘り、月岡さんの指導で。水飲み場の整備を石積み、屋根かけで。水神様を祀るなど、提案あり。

5月15日山の口開け弁当(気ママ屋)

若草のフィールドで腰を下ろしてほおばるおむすびは、最高でした

- ・おむすび酵素玄米小豆入りご飯とノリ
- ・筍の煮物
- ・蕗の煮物
- ・とれたてワラビの味噌汁
- ・ヤーコン茶
- ・ おやつ:マドレーヌ、ヤーコン粉入り生地に桃のコンポート入りしっとりと美味で大好評!



5月15日 ロッジとんち夕食

春紅葉の山の口開けで若葉を満喫した夕食はとんちご主人のこだわり自家製がふんだんに盛り込まれ、味付けのアイディアの良さに和やかな食事でした。特に山菜まぜまぜ和風サラダは全員の一押しでした。

焼き物 鮎の山椒味噌田楽、とれたてわさびの粕漬け

煮物 炊き合わせ、筍、ミミズ豆腐(人参、ごぼうまき)里芋、オクラ

揚げ物 タラの芽、ウドの芽、肉厚椎茸、舞茸、赤ピーマン、イカ、ナス

練り物 自家製ごま豆腐、揚げエビ、オクラのせくずあんかけ

酢の物 自家製刺身こんにゃく(粉のこんにゃくを使って)、新玉葱、辛子酢味噌

サラダ 山菜まぜまぜ和風サラダ

イラクサ(とげがありさわると痛い・・・!

ささるとカユイ!でもゆでると美味)

ワラビ、ウド、ウリッパ(ギホウシ)

ミツバ、アケビの新芽、カニ入り和風ドレッシング

汁 物 蓬うどん、浅摘みヨモギをねりこんだ、淡い春色うどん うどんのごままぶし、山椒味噌をぬったもの

香の物 自家製漬け物、たくわん、しょうが、葉もの浅漬け ミーティング時

こごみのおしたし、行者ニンニクの味噌味(野趣あふれる美味)



5月16日 ロッジとんち朝食

- ・イラ草とこんにゃくの煮物 (芋こんにゃくを使って)
- ・馬鈴、人参、ピーマン炒り煮(ピリ辛味)
- ・シシャモ、山椒若葉煮付け
- ・味噌汁、ナメコ、豆腐
- ・目玉焼き

若葉を満喫し山菜を食す!ぜいたく!!を体験できた幸せ。

清らかな水の流れ、ニリン草の群生。いつまでも安心してニリン草

が咲けるような清らかな森を大切にしよう!幸せなフィールドワークでした。



第21回「森林の市」出展

浅川潔

5月22日(土)・23日(日)に代々木公園で「森林の市」が開催され、森林塾青水では水上町のテントを借りて次のような出展を行い、大勢の方々にお手伝いしてもらいました。日大の先生や学生さん達とも交流ができ、その時来ていた中には、麗澤中学樹木観察会に来た学生もいました。木工品はあまり売れ行きがよくなかったが、パネルやリーフレットによって大勢の方にPRできたと思います。

出展内容は 会の紹介(パネル展示、リーフレット配布) 木工品(広川氏、他地元木工家制作の木工品「森林塾青水」刻印つき) 惣一郎さん制作のわら草履、ミニ茅簾などの販売 茅編み体験(茅編み機3台でミニ簾製作を体験して持ち帰ってもらう) 竹炭短冊づくり(紙に絵や言葉を書いて竹炭に貼る)

(写真:海老沢)













麗澤中学「樹木観察会」に参加して

伊東伴尾

今回の観察会はフィールド近くの我孫子市在住の湯本氏が中心になって企画運営されました。

麗澤中学校は柏市の市街地に69年前開設された廣池学園キャンパス内にあります。敷地面積は46haと広く、その70%(資料写真からの想定)は290種15000本以上の樹木等からなる樹林や広がりのある芝生地、それらに棲息するリスやウサギ等の動物等と、自然度の高い環境です。これは、創立者廣池千九郎博士の「樹木を無闇に伐る者は滅ぶ」「人間が形成されるのは自然の環境の力が第一」等の教育理念をもとにキャンパス整備されてきた結果が、今日の自然環境の豊かさとなっていると思われます。

「樹木観察会」下見

4月28日の下見で現地を訪れた感想は、敷地に入ると快適な森林に踏み入った感じを受け、次々に出会う学生や職員の皆さんが交わす明るい挨拶が、さらに心地よさを増幅させました。樹林を抜けるとソメイヨシノの古木(80年生?)並木と、構内中央に広い芝生広場に10~15mのケヤキ、コブシ、ヒトツバタゴ等の修景木が点在し、それはヨーロッパの公園をイメージさせるものでした。特にヒトツバタゴの大木樹冠を覆う満開の白花には魅了されました。

中学校に着くと担当の藤田先生が出迎えられ、早速会議室に案内され湯本氏が準備された「樹木観察会」要領に基づきフィールドワークの検討を行いました。その後フィールドで班毎の観察樹木の下見し、観察会参加する中学生と一緒に昼食をとりました。初めての顔あわせでしたが、全員で昼食前後のそろっての挨拶は「すがすがしさ」と「礼儀を重視する教育」を感じさせるものでした。

「樹木観察会」当日



昨年は日本大学の学生だけで「樹木観察会」を行ったそうですが、今年は森林塾が受託し、彼等の協力を得て、一班が森林塾会員 1~2名・日大生 2~3名・中学生 12~13名からなる 8 グループで樹木観察会を行いました。最初は室内で導入プログラムとして、袋内や容器内の植物を五感で植物を感じとるゲームでした。これには大学生がグループの輪の中に入り積極的にアシスタント役を務め、世代格差のある森林塾会員の間をつなぐ役割を果たし、すぐに打ち解けることができました。

その後、グループ毎にフィールドで樹木の計測実習や、観察会が 行われました。我グループの中には、「マツノマダラカミキリとマツ ノザイゼンチュウの関係」等を知っている昆虫に詳しい中学生や、

教室の掲示で将来の夢として「自分の生き方を貫き通す人生を送りたい」等を書く中学生等と麗澤中学のすばらしい「自分プロジェクト」教育の一端を見せていただきました。観察会後、会議室で反省会を開き、自分としても準備不足や専門用語を使い中学生には分かりにくい等の反省点が多々ありました。その、一方、社会参加に積極的な森林塾や日大生との交流での「人間浴」や、麗澤中学の「すばらしい自然環境と教育方針」に触れることができ、豊かな時間を過ごすことができました。関係者に感謝。

団体受入「自然ふれあい楽習プログラム」

" 奥里山景観 " のんびりスケッチツアー

- 日本の心の原風景・いで湯の里藤原 -

清水英毅

主 催:渋谷区恵比寿「ひさゑ会&風の会」共 催:森林塾青水・水上町観光商工課

日程:04年6月12日(土)~13日(日)

参加者:13名 随員:清水、村山、片田 アシスト:高橋、中島

宿泊地:A班葉留日野山荘、B班ロッジ雪割荘

「**奥里山のんびリスケッチ旅行」紀行・・・・・・・・・・・・**ひさゑ会 和田香代子

里山を歩いていて思いました。人と自然は共存しているんだなぁーと。山は人の手を借りて美しくなり、人 は自然から生きる力をいただいている。

この度、利根川の源流を訪れ、ブナ林の中で渾々と湧き出る水を目の当たりにした時、この水源も多くの人々 によって守られ小さな水の流れがあの利根川となり、私達東京都民の生活を潤している。思わずありがたいな ぁー、と。満々と水を湛えた藤原湖、その湖に谷川岳を映す。大感激です。耳をすますと風と水と蝦夷春蝉と 郭公の声のみ。美しい緑の中で一瞬時が止まったような気がしました。忙しく時間に追われる日々を過ごす私 には、まるで別世界。

アスファルトの道ばかり歩いている足に山道のクッションがとても心地よく感じました。マチが沢では、蝦 夷春蝉が私の足にとまり、かんげいしてくれたのかなあーと嬉しくなりました。

今回の「スケッチ旅行」思うように絵は描けませんでしたが、心の中に大きな絵が描けたような気がします。 皆様のお陰でとても楽しい二日間でした。













事務局からのお知らせ; 7月から8月までの予定;

- 1.7月23日~25日;講座「森林コモンズ村・ふじわら」第3回
- 2. 第 2 回フィールドスタディ

日 時 平成 16 年 7 月 24 日 (土)~25 日 (日)

宿泊場所 民宿「本家」 TEL 0278-75-2555

参加費 7 7 0 0 円 (一泊 2 日宿泊費 + 2 日分昼食)

フィールドワーク

ススキ草原再生のグランドデザインに沿った道普請と、水くみ場整備(石組み、石畳の造作等)で汗 を流しながら学びます。

古老ヒアリング

ススキ草原の歴史や使われ方等のお話を聞き、今後のあり方を共に考えます。

上記 、 とも講座「コモンズ村・ふじわら」と合流して行います。

- 3.団体受入;川口・チャレンジ教室8月7日(土)
- 4. 団体受入; ガールスカウト千葉80団(浦安)8月8日(日)
- 5.団体受入;柏・ネイチャーゲームの会8月21日(土)22日(日)

編集後記 - 塾長のつぶやき -

活動参加レポートや寄稿をいただいた皆さん、大変お待たせいたしました。9号が4月30日発行だったので、10号は6月30日付と思ったのですが、原稿がたくさんありすぎて(つまり、やった事が沢山ありすぎて!)遅れてしまいました。少数精鋭スタッフとしては嬉しい悲鳴ですが、事情ご賢察上、ご寛恕ください。

多葉田さんの力作レポート「ススキ草原の野鳥たち」は、あまりの力作ぶりにて、10号からはみ出して号外別刷り扱いになりました。多葉田さんありがとうございました。

「日本の里地・里山30-保全活動コンテスト」受賞の件。活動開始からわずか4年でこんな賞をもらってしまって、本当にいいのか?町長をはじめ水上町当局や地元・藤原の皆さんと共に喜びを分かち合うと同時に、「これがゴールではなく、これが始まり」との自覚を共有し、主催者(読売新聞・環境省)ならびに関係各位の期待に応えられる様、地道な活動を積み上げていきたいもの。レポートにはなかったけど、重要な事がもう一ツ。

6月4日(金)~6日(日) 第2回講座「コモンズ村・ふじわら」のプログラム=ススキ草原のフィールドスタディに参加した。10m×10mのブロックに分かれて毎木調査をしている時、地べたにしゃがんで上を見上げると、まるでタニウツギの森の中にいる様な感じがした。すごい勢いで森林化が進んでいるのだな、と空恐ろしい気持ちになっていた。

後日フィールドスタディリーダーの海老沢学監の分析結果報告によると、我等がススキ草原の森林 化度は、14%で立派な森!!、の由。

早速、7月14日幹事会でこのデーターを共有した次第だが、"ゆっくり、楽しみながら"がモットーの当塾として、この猛烈な森林化の状況にどう対処すべきか・・・。

草むしる 来しかた 行くすえ 思いつつ

(青)